

創造性や独創性を育むのに「保留法」は役立つか

五十嵐靖則 IGARASHI Yasunori

東京理科大学

【キーワード】 創造性、独創性、スキーマ、メタ認知、概念形成、思考法、学習法

1 はじめに

「保留法」による概念形成、メタ認知能力の育成、自己スキーマの改善等について、本学会で報告した¹⁾、²⁾、³⁾、⁴⁾、⁵⁾。この「保留法」は授業での学生からの質問と私自身の経験とから生まれたものである。「保留法」は科学概念の形成の他、創造性の育成にも役立つことが判明したので報告する。

2 「保留法」とは

「保留法」とは、『自分の持っている既存の考えに固執しないで、一時、保留しておいて、教師が提示する新しい考え方や、他の人の考えに耳を傾け、その考えを受け入れて、新しい事実を理解し、柔軟に思考を展開していく方法。』である。

3 「保留法」が創造性や独創性を育むのに役立つ根拠を探る

「保留法」が学習者の創造性や独創性を育むのに役立つことを実証するために、学生にこれまでの体験を質問紙法で尋ねた。質問は、『創造性や独創性を育むためには、これまでの自己のスキーマを点検する必要がありますが、「保留法」はその時、どのように役立ちますか、貴方のこれまでの体験などを振り返り、教えてください。』である。

(1) 調査

一昨年(2012年)度は、前期の中頃に、科学概念や新しい考えを理解する方法の1つに「保留法」があることを紹介した。その後、昨年(2013年)度前期の終わりに、創造性や独創性を育むのに「保留法」が役立つかを問うアンケート調査を実施した。調査対象は、農工系のA大学生122名である。

(2) 学生の回答

創造性や独創性を育むのに有効であると回答した学生は、ほぼ全員であった。その中から幾つかをピックアップして紹介する。

① 保留法は、自分の考えを一度保留にして、他の人の意見を聞くなどといった方法である。私は卒論を書いていた時、指導教授の話は聞き入れ、信念をもって研究をしていて、あまり論文を読まずに進めていた。しかし、土壌学や生態学の先生と話をし、「論文を読むことに始まり、書くことに終

わる」ことを知り、様々な先生方の話を聞けば聞くほど、研究に新しい可能性が見えてきました。

② 多種多様な問題解決の仕方がある学習環境こそ、創造性や独創性を育てることができる。その際 保留法は、自分の考えを一時的に保留し、新たな考えを受け入れ、検討することができることから、この多様な問題解決の仕方を学習できる環境を自ら造ることができるので役立つと考える。

③ 創造性や独創性は、あらゆる知識や見方や考え方、経験があって生まれるものだと思う。創造性や独創性を育むというのは、それだけ多くの知識や経験を積むと考えると、保留法によって他者からの見方や考え方を得ることによって、自分の見方や考え方、知識や経験と照らし合わせて、新しい見方が生まれ、創造性や独創性を育むことにつながっていくと思う。

④ 1つの考えに捕われてしまうと、創造的な考え方をすることができなくなってしまふ。なので、保留法によって自分の考えを一度置いて、新しい考えを受容することは自分の考の幅が広がり、創造性や独創性を育むよい方法であると考え。

4 考察

調査結果から、考えの幅が広がる、柔軟に思考できるようになった等が分かる。

5 まとめ

「保留法」は、創造性や独創性を育む上で役立つことが判明した。

6 参考文献

- 1) 五十嵐靖則 「理科の授業で新しい考え方や科学概念を形成する方法について」日本理科教育学会全国大会論文集第6号2008年343
- 2) 五十嵐靖則 『「保留法」によるメタ認知能力の育成』日本理科教育学会全国大会論文集第7号2009年250
- 3) 五十嵐靖則 『「保留法」によるコミュニケーション能力の育成』日本理科教育学会全国大会論文集第8号2010年139
- 4) 五十嵐靖則 『「保留法」による自己スキーマの改善』日本理科教育学会全国大会論文集第9号2011年131
- 5) 五十嵐靖則 『「保留法」による柔軟性の育成』日本理科教育学会全国大会論文集第10号2012年133